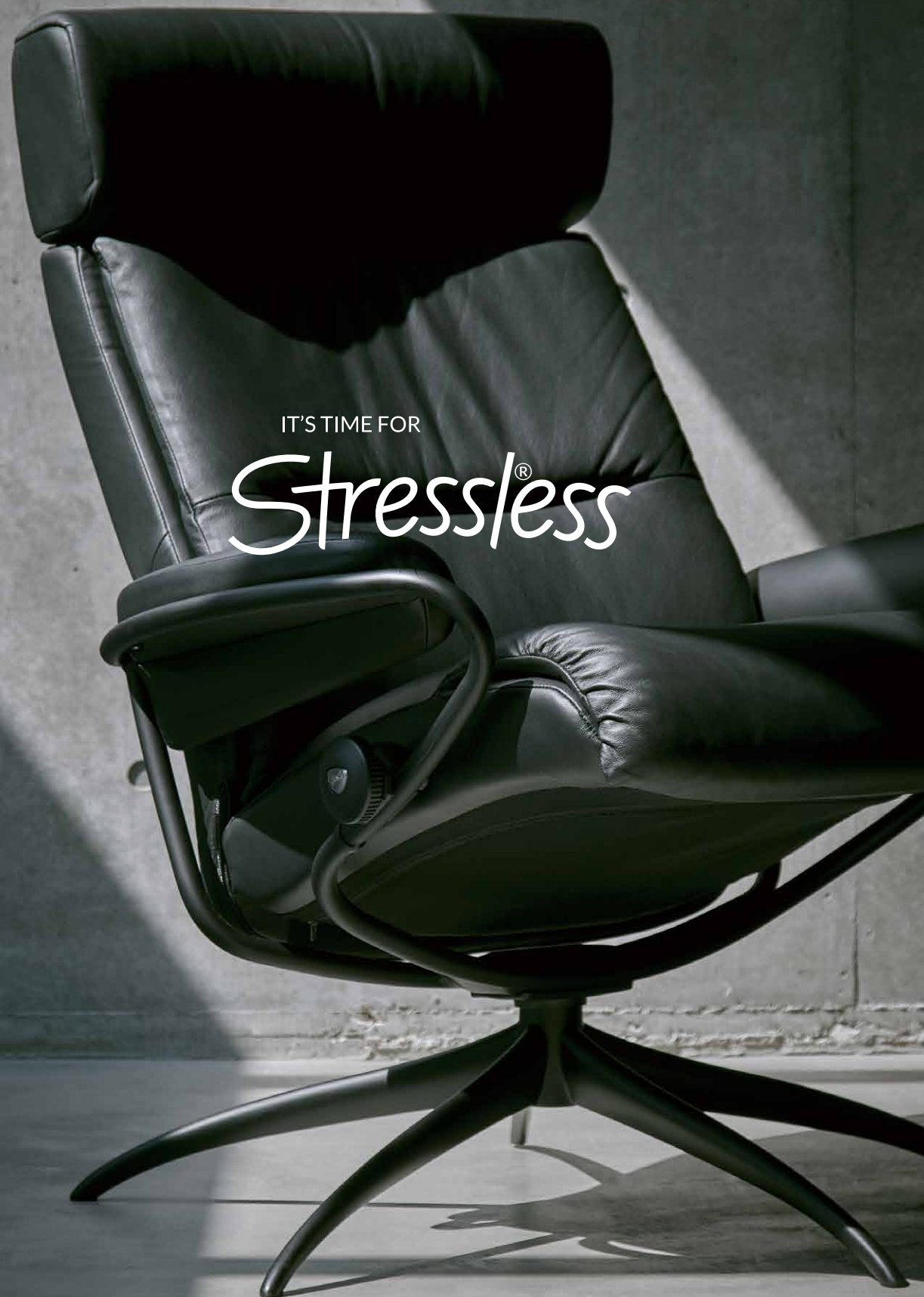


Stressless® TOKYO

Style Book

IT'S TIME FOR

Stressless®



株式会社エコーネス

TEL : 03-3538-1411 (代)

FAX : 03-3567-2130

0120-18-1485

ストレスレス® ショールーム東京

営業時間 / 10:00 ~ 18:00 (水曜定休)

0120-11-9269

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-5 京橋スクエア 5F



HPでは、TOKYO PROFESSIONALS 3名の
ロングインタビュー完全版の他、スペシャルページを
公開中。こちらもぜひお楽しみください。
www.stressless.com

Stressless

www.stressless.com

※価格はすべてメーカー希望小売価格・本体価格となります。ご購入の際は別途消費税が掛かります。

PROLOGUE

Stressless® TOKYO

TOKYOの風景

東京（TOKYO） — 世界でトップクラスの都市人口を誇り、
政治・文化・経済の世界的中枢を担うグローバル都市。

ここでは、“伝統と革新”、“デジタルとアナログ”、“喧噪と孤独”、“情熱と冷静”、“光と影”……
これらの相反したさまざまな事象や人の心の機微が、時には重なり、時にはぶつかり合いながら、
新しいビジネス、アート、ファッション、カルチャーを今日も世界に生み出している。

東京の街の明かりは、朝が来て太陽にその輝きを奪われるまで、その存在感溢れる光を放ち続ける。
そしてまた新たな一日が始まり、そこに生きる人々は時に活力に溢れ、時に疲弊しながらも、
日常という着実な時の流れに身を任せる。

東京という街の慌ただしい日常には、今こそ“特等席”が必要なかもしれない。
ある人はそこで安らぎを取り戻し、ある人はそこで心を真っ白にし、
ある人はそこで新たな着想や希望を得る、そんな自分だけの場所と時間。

It's time for Stressless®

東京を、街を、それぞれの日常を生きる全ての人々に、ひとつ上の安らぎを与えてくれる、
フィヨルドに囲まれたノルウェー西部の街で生まれた
クラフトマンシップから生まれた“特等席”、Stressless® TOKYO。

それを手にした時、目にする景色、始まるストーリーは、
今日までいた世界とは変わったものに映るだろう。

TOKYO PROFESSIONALS

photo: HIDEYUKI SETA, SIO YOSHIDA text: MOTOYA SAHARA edit: YUKI SUGAWARA (FMJ STUDIO)

トップアスリート、俳優、ファッションフォトグラファー。東京を舞台に第一線で活躍するプロフェッショナルが持つ、唯一無二の才能、研ぎ澄まされる感覚、卓越したパフォーマンス。常識を疑い、独自の美学で自分と限りなく向き合う彼らが手に入れた“特等席”とは？そのストーリーに、Stressless® TOKYOと共に追る。



TOKYO PROFESSIONALS_01

AYUMU GOROMARU

Rugby Player

“心身をリセットして、次に向かう。
一日の終わりをこの特等席で”

AYUMU GOROMARU | 五郎丸歩

1986年、福岡県出身。ヤマハ発動機ジュビロ所属。3歳からラグビーを始め、早稲田大学で3度大学日本一に。ラグビーW杯2015では、南アフリカに勝利し、ベスト15に日本人初選出。豪ケイプスランド・レッズ、仏RCトゥロンを経て国内復帰。W杯2019日本大会ではNHKナビゲーターも務めた。

Special Movie



五郎丸歩選手出演の
コンセプトムービーも公開中。
ぜひこちらもご覧ください。

2015年には日本代表として、2019年はナビゲーターとしても

ラグビーワールドカップの興奮と感動を日本中に届けてくれた、ラグビー・五郎丸歩選手。

昨今のラグビーブームを巻き起こした立役者であり、ラグビー界を牽引する一人である、五郎丸歩選手が語る

ラグビーにかける想い、ご自宅でも愛用するストレスレス®チェア、そしてトーキョーの魅力について。

2019年のラグビー界は日本代表初のベスト8進出、「ONE TEAM」が流行語大賞になるなど、国民的スポーツとして注目されました。その状況をどのように感じていますか？

今のラグビーが注目を集めている状況をとっても嬉しく思っています。我々2015年の日本代表メンバーはこの自分達の闘いが、2019年の日本大会に繋がって欲しい、そんな気持ちでプレーをしていました。彼らは、僕らが渡したパトンで、100点の結果を残してくれた。ラグビーの価値や魅力など、色んなことを彼らはプレーで多くの人たちに伝えてくれたと思います。

NHKラグビーワールドカップナビゲーターも務められました。いかがでしたか？

初めての経験で最初は戸惑いもありました。ただ、NHKのスタッフの皆さんがプロフェッショナルの集団で、一緒に番組を作り上げているうちに、それが楽しみに変わっていききました。

ラグビーファンはもちろん、ラグビーをはじめ子供たちも増えたのでは？

うちの息子が通っているラグビースクールにも、毎週のように体験入学希望者がきてくれ

ています。僕自身足が速いわけでもないし、人と比べて秀でている部分が少ないタイプなのですがキック力だけは誰にも負けなかったし、正確性も高かった。結果、日本代表になって、ワールドカップにも出られました。ラグビーには自分を生かせるポジションがあるので、子供達もそれぞれの個性を見つけて、それを伸ばして欲しいですね。

海外ではどのように過ごされていましたか？

フランスでは、南仏のトゥロンという街の海辺の家で暮らしていました。カンスまで1



時間くらいのところ。日曜日はスーパーも休むので、基本外出することもなく、家族の時間が増えました。時間があるときは、車で国境を超えて、イタリアの北部とかを周りました。

日本に復帰後、周囲からは「雰囲気が変わった」と驚かれたとか。海外生活で変化などありましたか？

海外に行く前はラグビーが中心の生活で、家族との時間よりラグビーを優先することも多かったのですが、海外の選手達との交流の中で、ラグビーは生活の一部に過ぎない、そんな捉え方に変わっていききましたね。

プライベートでリラックスできる瞬間や、安らぎを感じる時間は？

シーズン中は生活のリズムを変えないようにしています。オフになると気持ちを切り替えるのに、海を見に行くとか、キャンプをしたり、日常から離れたことをしたくなりますね。

ご自身をとりまく環境も変わられたと思いますが、ストレスを感じることは？ 一般の方々もできるストレスへの向き合い方があれば教えてください。

ストレスとかプレッシャーって目に見えないですし、触れないものですね。自分がストレスと思えばストレスだし、プレッシャーと思えばプレッシャーになる。そんなものを感じているくらいなら、自分のできることをピックアップして、外的要因を一つずつ解決してゆく事に集中した方が良い結果に繋がっていきますよね。

ラグビーでいえばゴールが決まる、外れるという結果より、自分のできることに集中する過程が大切で、その結果外れてもしようがないし、そこには後悔もない。あるとすれば、自分がやれることをやらなかった後悔です。そんな風に考えるとストレスやプレッシャーから少し楽になれると思います。



五郎丸選手の思う「心地のよい住まい」の条件とは？

家具は黒が好きで、家のチェアもソファもブラックです。他の家具もモノトーンなものが多いです。理想はスタイリッシュな感じがいいんですが、結局は落ち着く家がいいですね。

今、ストレスレス®チェアはどのように、どんな時に座られていますか？

家ではリビングに置いてあるのですが、帰ってから疲れをとりたい時や、リラックスしたい時に座ることが多いです。あとは、資料を見たりとか、そこでパソコンに触ったりして、自分やチームのプレーを振り返ります。ラグビーを離れたら、読書をしたり、映画を観たりもします。

今回のストレスレス®トーキョーはいかがですか？ この特等席でどんな時間を過ごしたいですか？

僕の持っているものは、もう少し背が大きくて、脚がシルバーのタイプなのですが、そのタイプよりも、コンパクトな印象です。あと、体が包まれている印象、支えてくれている感じがあります。ポジションを変えずに座っていても、お尻も腰も痛くならないし、気を許すと眠ってしまいそうになりますね。これからは「トーキョー」という特等席に座って東京という街

で行われるビッグイベントをスポーツ人として、観るのが楽しみです。

東京という街は、五郎丸選手にとってどのような場所ですか？

僕は福岡の外れの山寄りの街で育ったのですが、「東京=都会」というイメージが強かったので、最初、大学が決まって上京する際に、恐怖心、不安のようなものがありました。ただ、「勝負をしに行く場所」、そんな思いはありましたね。

東京で好きな場所はどこですか？

おしゃれなレストランとか、食事をする場所は好きですね。大学生の頃、自由が丘にオムライスを食べに行ったのですが、そこのお店が好きになり、今でも近くに行くことがあるとその店を訪ねたりします。

日本ラグビーの聖地、東京・秩父宮ラグビー場はいかがでしょう？

小さい頃からテレビで見えていた、花園と同じ憧れの場所です。最初は大勢の観衆に囲まれて「失敗してはいけない」というプレッシャーを感じました。自分がそこにいることに不思議な違和感がありながらも、ここで結果を残さなくてはいけないという思い。あとは、日本代表のユニフォームを着て戦った、

2013年のウェールズとの試合は強く記憶に残っています。

今後の目標をお聞かせください。

ラグビーでは、自分の経験を子供達に伝えていきたい。田舎育ちの自分が、まさか日本代表のユニフォームを着てワールドカップに出場して、結果を残せるなんて思ってもいなかったです。チャンスはどこにでもあるということ、実際経験した僕の言葉で次の世代に伝えていきたいと思っています。

エコーネスでは、ストレスレス®チェアがもたらす時間を「It's time for Stressless」という言葉で表現していますが、五郎丸選手にとって「It's time for」に続く言葉は？

“It's time for a Reset”です。僕はあまり先を見る人間ではなく、一日一日を精一杯生きているタイプなので、肉体的にも精神的にも疲れて帰ることも多い。そういった意味でも一日の終わりにチェアに座って、自分を振り返る時間を大切にしています。僕にとってストレスレス®チェアは、次に向かうためにリセットする場所でもあります。そんな日常を送る中で、今は“鍛錬”の時期だと思っているんです。人として、五郎丸歩として、ラグビーを通して、何ができるかを考えつつ、日々自分の中の何かを磨いているのではないかと最近思います。



KEN MITSUISHI

Actor × Premium Leather -Cognac-

“ストレスさえ楽しむのが役者。
常にアクションを起こしていきたい”



KEN MITSUISHI | 光石研

1961年、福岡県出身。16歳の時に映画「博多っ子純情」の主演に抜擢され78年にデビュー。「ひまわり」「アウトレージビヨンド」などの話題作に出演。2019年「デザイナー 渋井直人の休日」では初のドラマ単独主演を務めた。連続ドラマW「コールドケース3～真実の扉～」が2020年冬、放送予定。

数々の映画・ドラマなどで名パイプレイヤーとして活躍する俳優 光石研さん。近年では、連続ドラマ単独初主演となった「デザイナー 渋井直人の休日」が話題に。その役柄のイメージとも重なるミッドセンチュリー家具好き、古着好きとしてこだわりのライフスタイルを持つ一面も注目を集めています。キャリア42年・役者一筋の名優が見つめる東京、その先に目指すことは。

空間やインテリアに興味を持ったきっかけは？

模様替えをしてみたり、タンスに色を塗ったり、そんなことが大好きな子供で。そのうち雑誌「POPEYE」を読むようになり、ライフスタイルを楽しむということに影響されていきました。

家具を選ぶ際のこだわりのポイントは？

10代でミッドセンチュリーブームにどっぷり影響されて、50～60年代のカルチャーへの興味から、家具もその時代のものが好きになり、そこを基準に買い集めるように。中でも椅子はバラエティが豊富で、それぞれこだわりのポイントが違う。テーブルは4本足に縛られて



いてどうしても画一的な印象があるけれど、椅子は決められた形がなくて自由度が高い分、家具の中で一番面白い感じがします。

光石さんの思う「心地のよい住まい」の条件とは？

好きな家具に囲まれているというのはもちろんですが、一つひとつにちゃんと自分の手垢、指紋が付いているというか、肌馴染みがある空間や時間を経た自分史みたいなものが感じられる場所を居心地いいと感じます。

役者の魅力・醍醐味をどこに感じますか？

一つのカットを撮るために、スタッフが集中して、自分は役者としてその緊張感ある場に居

て。色んな部署が総動員して絵を作り上げ、チェックして、監督から「OK」という言葉が発せられた時に、その緊張感が溶けていく、その瞬間が至福の喜びです。役には台本も有りますし、カメラが回った瞬間から演じてるとは思うのですが、どこまで自分か、どこまでが役なのか、僕としてはわからない。観ている方を煙に巻くってどうか、そのくらい曖昧な方が面白いと思ってるんですね。

東京で好きな場所、特等席は？

生まれ育った黒崎という街が歓楽街で、商店もあって、という雰囲気。例えば、三軒茶屋とか、下北沢とか、ワサワサした商店街があるところがずっと好きかもしれないですね。

「ストレスレス®トーキョー」に座ってみた印象を教えてください。

黒い脚が素敵ですね。ミッドセンチュリーの椅子にも黒ワイヤーのものって凄く多いんです。これはカジュアルな印象もあっても、大きさが丁度良くて。自分のライフスタイルにも自然に溶け込むように。体に馴染む感じが、やはりヨーロッパの椅子は座り心地がいいですね。

今後、「トーキョー」という特等席でどんな時間を過ごしたいですか？

自宅でターンテーブルと、レコードのラックがあるスペースの横に置きたいですね。そこに座りレコードを取り出し、埃をとってターンテ



ブルに置いて、お気に入りのスイートソウルの曲を聴きながら、コーヒーやお酒を飲んだり。あとは、ウクレレを弾くのもいいですね。家には、ハワイに行った時ミュージシャンからいただいたウクレレがあるんですが、のんびりそれを奏でたら、最高のリラックスできる時間になりますね。

「It's time for」に続く言葉は？

“It's time for Action”でしょうか。仕事というか、Action(アクション)という言葉がピッタリきます。僕らの仕事は、緊張感もありますが、ストレスといいつつ、それを楽しんでいて、仕事であって仕事ではない部分があります。人として、役者として常にアクションを起こしていきたいですね。



KAZUKI NAGAYAMA

Photographer × Premium Leather -Black-

“座ることは、贅沢なこと。
エレガンスが宿る逸品を求めて”



KAZUKI NAGAYAMA | 長山一樹
1982年、神奈川県出身。2007年に独立後、数々のファッション誌、広告などで活躍中。その作品性はもちろん、アイコン的なスーツスタイルで業界内からも支持が厚い。カメラメーカー「ハッセルブラッド」のジャパン・ローカルアンバサダーも務める。

スタイリッシュなスーツ姿に、ハッセルブラッドというこだわりのカメラで撮影に臨み、美しく繊細な写真で数多くのファッション誌や広告を彩るフォトグラファーの長山一樹さん。幾つものヴィンテージチェアが並び、自身の美意識が細部にまで行き渡った、東京・馬喰横山に構えるスタジオ兼事務所を訪ねました。チェアをこよなく愛する彼がたどり着いた、エレガンスの解釈とは？

チェアに興味を持ったきっかけは？

「生活における全てにこだわりを持つとしたら、何から始めよう」そう考えた時に、人が日常の中で一番長い時間を費やしているのは、“座る”ということだと思い当たりました。一概にリラックスできる椅子だけがいい椅子とは限らず、すぐ立てることがいいという状況もあれば、作業によっては座りづらくて、背筋が伸びる椅子がいい時もある。“椅子”選びや座る”ことって何をするか、何を考えるかに影響されて、そこも面白いなと思っていました。

なかでもヴィンテージ家具の魅力とは？

元々デザインが好きで、歴史を遡って、背景を探ることが楽しくなり。なぜその家具を持っているか、自分が答えを持っていないといけないものが生活の中にあることが楽しいですね。

ストレスとの向き合い方やオンオフの切り替えで、意識することはありますか？

そもそも仕事がいちばんストレスがないんですよ。「ストレスだな」って思うことは、やらなければいい。あとは、仕事上のハードルは、プロとして当たり前のことという感覚がある。それは自分でコントロールできますから。

長山さんにとって東京とは？ また東京で好きな場所、特等席は？

挑戦する場所ですね。東京にいと常に新しいことに挑戦しようとする意識が生まれます。

好きな東京は、撮影現場でしょうか。様々な人たちが集まり、一つのアウトプットに向かう瞬間。自分の力を一番発揮できる場所ですし、自分が居る意味を感じる場所でもあります。

スーツでお仕事をされることで知られていますが、きっかけは？

「自分の持つものに、意志を持つ」という考えから。オーダーで採寸する際に、僕の場合カメラを構えた時の姿勢でフィッティングをします。正装ではなく、ユニフォームに近い感覚です。

ご自身にとってチェアとは？

椅子は、体の一部というか、延長線というか、かなり脳に直結したものでよね。自分の



やりたいことで、選ぶ椅子も変わる。自分の気分と椅子とが繋がっていると感ずることがあります。

「ストレスレス®トーキョー」に座ってみた印象を教えてください。

脚、骨格部分がミニマムでいいですね。ヴィンテージルックなレザーとも相性がいい。ヘッドレストが低いのも今っぽい。ヘッドレストが動いて、顎の角度がキープされるので、本を読んだり、簡単な作業にも向いていますね。

今後、「トーキョー」という特等席でどんな時間を過ごしたいですか？

まずは、ここで眠っている絵が浮かびます(笑)。あとは自分の時間にすぐく適しているので、プライベートルームとか趣味部屋に置いて、五感でインプットをする時に一番リラックスした状態で使いたいです。今の僕なら、葉巻ですね。サイドテーブルを置いて、モルトも用意して。

「It's time for～」に続く言葉は？

“It's time for Elegance.”です。僕は“エレガンス=贅沢”だと思っていて。例えば、ちょっといい傘を買ったら雨の日でさえ愉しくなるように、帰ってあのチェアに座りたいなって思うことが嬉しい。そういう意味では、僕にとって「座ることは、贅沢なこと」なんです。結果、それがストレスレスにつながるのだと思います。



LINE UP

Stressless® TOKYO

TOKYOの特等席を手に入れる

1971年にストレスレス®が誕生して約50年。こだわり続けたのは、長時間座っても疲れにくい極上の座り心地と、体重移動だけで体に吸い付くようなスムーズなリクライニングを実現する、その究極にシンプルな機能。それらを最も美しいフォルムに置き換えた時、ストレスレス®トーキョーが誕生しました。

大都市 東京のライフスタイルをイメージしたモダンでミニマルなデザインに、ほどよく包み込む絶妙なホールド感と心地よさをのせて。トーキョーがあれば、毎日家に帰るのが楽しみに、そして家で過ごす時間は心豊かに、空間はワンランク上質なものになるはず。

毎日数えきれない人や膨大な情報に囲まれて、頭も心も休まらない人たちへ——いまこの時代に改めて届けたいのは、“ストレスレス”な時間と精神。仕事もプライベートも忙しくも充実した日々を送る全てのオトナに、心の余裕と体を解放するひとときを。

TOKYOの特等席であなたに映る景色が、とびきり最高のものでありますように。

ストレスレス®トーキョー ヘッドレスト付ローバック

皮革タイプ/パロマ ※在庫カラーは下記
脚部カラー：マットブラック

オットマンセット (M) ¥296,300
(チェア ¥234,500、オットマン ¥61,800)

チェア W:80 H:99/109 D:76 SH:47
オットマン W:54 H:46 D:46

※チェアとオットマンは別売が可能です。



Stressless® Tokyo Low back with adjustable headrest and footstool shown in Paloma Black/Matt Black

Color Variation 在庫カラー

右上から時計回りに ①ブラック ②マルーン ③パニラ ④クリスタルブルー



DETAILS

- ・リクライニング機能
- ・ロッキング機能
- ・ヘッドレスト10cm昇降機能

1.無段階で圧倒的にスムーズなリクライニングと長時間体への負担が少ない点が“まさにストレスレス”たる理由 2.長年へたりづらく究極のフィット感をもたらす高密度モールドウレタン 3.マットブラック脚部はモダンでスッキリした印象に 4.ヘッドレストは10cm昇降可能。コンパクトなローバックでもあらゆる身長の人にも合わせやすい



SPECIAL ORDER

受注生産品

- ・受注生産品はご注文後にノルウェーで製造するため、お届けまで約5か月前後いただきます。
 - ・脚部の仕上げはマットブラックの他、クロムもお選びいただけます。
 - ・レザーはストレスレス®の4種のグレード（パティック/コリー/パロマ/プレス）をご用意しております。（レザーのグレードにより価格は異なります）
- ※詳細は総合カタログをご参照ください。



Stressless®Tokyo Highback w/ottoman

ストレスレス®トーキョー ハイバック

皮革タイプ/パロマ

オットマンセット (M) ¥296,300
(チェア ¥234,500、オットマン ¥61,800)

チェア W:80 H:110 D:81 SH:47
オットマン W:54 H:46 D:46

※チェアとオットマンは別売が可能です。



Left: Stressless®Tokyo Lowback w/headrest Right: Stressless®Tokyo Lowback

右) ストレスレス®トーキョー ローバック

皮革タイプ/パロマ

(M) ¥205,800

W:80 H:85 D:77 SH:47

※ローバックにはオットマンは付属しておりません。

※ローバックにてご購入後に、オプションでヘッドレストを付けることはできません。

LIMITED EDITION

限定モデル — プレミアムチェア —

- ・限定モデルはオットマンセットのみの販売となります。チェアのみは承れません。
- ・限定数量につき、売り切れ次第終了となります。事前に店頭でご確認ください。
- ・バイオニアレザーは、色の出方やムラ、傷も含めたナチュラルマークによりニュアンスもチェアごとに異なります。事前にレザー特性をご理解の上、お買い求めください。



ストレスレス®トーキョー プレミアムレザー ヘッドレスト付ローバック

皮革タイプ/バイオニア

カラー (皮革/脚部) : ① ブラック/マットブラック
② コニャック/マットブラック

オットマンセット (M) ¥330,900

チェア W:80 H:99/109 D:76 SH:47

オットマン W:54 H:46 D:46

Stressless®Tokyo Lowback with adjustable headrest and footstool shown in Pioneer Black and Cognac/Matt Black

ACCESSORIES



手を伸ばしたその先に、美しい佇まいのサイドテーブルを

スターベースの脚部デザインとマッチしたサイドテーブル。ガラス天板なので空間はより軽やかに明るく。ガラスとマットブラックのコントラストも美しい。脚部はマットブラックの他、クロムと2種からオーダー可能。サイズは写真のSサイズの他、2脚用のLサイズも。

ストレスレス®アーバンテーブル

ガラス天板 脚部カラー : ① マットブラック ② クロム

(S) ¥50,000 W:55 H:48 (L) ¥74,000 W:90 H:48

Pioneer

ヴィンテージな風合いが新しいプレミアムレザー

革本来のナチュラルマークが生かされたアニリン（染料）仕上げのプレミアムレザー「バイオニア」。日本初お披露目にて2色限定数量をTOKYO限定モデルとして発売します。オイルとワックスを染み込ませたレザーは、しなやかな手触りに自然で透明感ある発色。1脚ごとに異なる風合いと品格に加え、艶と味わいの変化とヴィンテージ感が愉しめるまさに大人の逸品。自分だけのオリジナルのトーキョーをぜひご自宅に。



Color: ① コニャック ② ブラック